

ほめること、叱ること、 生きる力を育てること

今は携帯電話やパソコンから気軽にインターネットへ接続でき、さまざまな情報を得ることができます。ほめることや叱ることに関してもたくさんの情報があり、多様な考えをリアルタイムで見られます。「叱らずにほめて育てよう」「上手にほめよう、上手に叱ろう」「ほめることの大切さ、叱ることのむずかしさ」「感情的にならずに叱ろう」など、子育てにあまりにも高度なテクニックが必要だとしたらしんどくなったりもします。

実際、「また叱ってしまった。子どもに泣かれてしまった」と落ち込んでいる親御さんの声をよく聞きます。「叱りすぎたかな」と反省したら、「ごめんね」と子どもに謝ることも必要だと思います。親も気分がすぐれずに、ちょっとしたことがイラッとすることもあります。ただ、叱るときは人格を否定せず、その行為に対して叱りたいものです。そしてほめるときは、何がよかったかを具体的に伝えましょう。“見てくれているんだ”とうれしくなって次への意欲にもつながります。子どもも大人もひとりひとり異なる

人格です。それぞれご家庭の30軒なり60軒なりの物差しで子どもと関わっていききたいものですね。“あのようにはしないといけない”と言葉を考えるより、「あなたが大事よ」と、親の気持ちを言葉に出して素直に伝えていきましょう。そして、時々抱きしめてあげてください、手を握ってあげてください、頭をなでてあげてください。あまりにもイライラしてきたら、生まれた時の写真を貼っている母子健康手帳を見ましょう。ほめることや叱ることは生きる力を育てることです。子どもの生きる力は、養育者の大らかな笑顔、叱られても守ってくれるという安心感だと思います。



めぐみ保育園 園長

弘田 恵子

めぐみ保育園園長。22歳で助産師になり、4年間高知の総合病院産婦人科でさまざまな出産に立ち会う。26歳から大阪府立母子保健総合医療センターのNICUで、6年間未熟児や障害のある赤ちゃんのケアをし、その後堺市で母乳育児相談室を仲間と開設。18年前から高知市内の保育園で、日々子どもたちと楽しく暮らす。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。

